

## 総 則

### 1 学習指導要領のねらいを踏まえた指導の一層の充実

#### (1) 学習指導要領における言語活動の充実

知識基盤社会の到来や、グローバル化の進展など急速に社会が変化する中、次代を担う子どもたちには、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや、他者と切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々との共存を図ることなど、変化に対応する能力や資質が一層求められている。

一方、近年の国内外の学力調査の結果などから、我が国の子どもたちには思考力・判断力・表現力等に課題がみられる。これら子どもたちをとりまく現状や課題等を踏まえ、平成17年4月から、中央教育審議会において教育課程の基準全体の見直しについて審議が行われた。この見直しの検討が進められる一方で、教育基本法、学校教育法が改正され、知・徳・体のバランス（教育基本法第2条第1号）を重視し、学校教育においてはこれらを調和的に育むことが必要である旨が法律上規定された。

さらに、学校教育法第51条に規定する高等学校の目標を達成する際に留意しなければならないことが、次のように学校教育法に規定された。

第30条② 前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

これらを踏まえ、中央教育審議会は平成20年1月に「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」を答申した（以下「平成20年答申」とする）。この答申において、学習指導要領の改訂に当たって充実すべき重要事項の第1として言語活動の充実を挙げ、各教科等を貫く重要な改善の視点として示した。

先の改正学校教育法に示された学力の重要な要素や平成20年答申を踏まえ、平成21年3月に公示された高等学校学習指導要領の第1章総則の第1款「教育課程編成の一般方針」及び第5款「教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項」に、言語活動の充実について記述された。

特に、第5款「教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項」には、各教科等において思考力、判断力、表現力等を育成する観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語環境を整え、言語活動の充実を図ることに配慮することが求められている。

加えて、新しい学習指導要領では、言語に関する能力を育成する中核的な国語科において、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のそれぞれに記録、要約、説明、論述、討論といった言語活動を例示した。また、国語科以外の各教科等においても、教科等の特質に応じた言語活動の充実について記述している。

## (2) 言語活動による論理的思考力の育成（実践例）

高等学校学習指導要領においては、思考力・判断力・表現力等を育成するため、基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習活動を重視することとし、その際特に、知的活動（論理や思考）やコミュニケーション、感性・情緒の基盤となる言語の重要性を踏まえて、言語活動を充実することとしている。

ここでは、思考ツールの活用や協同的な学び合いなど、多様な学習形態により言語活動の充実を図り、生徒の「考える力」、「伝え合う力」を高める取組を紹介する。

### ア 教育課程研究指定校（A高等学校）の実践例

#### (ア) 研究主題

言語活動による論理的思考力の系統的な育成

#### (イ) 取組内容（抜粋）

[各教科等の共通指導事項]

- a 理解や表現の基盤となる語彙を豊かにする。
- b 文章を書くことや、自分の考えや意見を述べる機会を多く設ける。
- c 自己や他者の評価を行い、お互いの感じたこと、考えたことを共有する機会を多く設ける。

#### ～各教科等における具体的な取組～

国語科を中心に各教科で課題解決型授業の実施など、言語活動の充実を図る授業を推進。

##### ■ 授業等における言語活動の計画的な場面設定（抜粋）

- ・国語：詩、俳句の創作、人生相談の回答作成、定期考査等において「思考力・判断力・表現力」を問う問題の出題、語彙力テスト、書写、聞き取り、文章要約の実施
- ・地歴公民（日本史）：テーマに従って人物、事件を調べ、レポート作成・発表
- ・数学：発問応答の際の結論に至るプロセスの説明
- ・理科：観察・実験結果から分かったことの説明・発表
- ・外国語：時事問題、人物について調べ、英語で発表
- ・芸術（美術）：作品製作後、講評会を開き自他の作品の良いところ等を発表

##### ■ 課題解決型授業における、少人数での意見交流等、コミュニケーションを深める場面の設定。（抜粋）

- ・数学：1つの課題について、各グループ毎に解答を作成し、最後は全体で発表・評価

一人では解決が難しく、一人一人の生徒の得意分野を生かせるような課題の設定が望ましい。

難しい課題も、互いに聞き合ったり、様々な意見を出し合ったりして、グループ内で協力し合いながら解答を作成していく。  
※ 教師からヒントが与えられる。

話し合いを可視化するため、ワークシートやホワイトボードを使用すると効果的である。

ヒントを聞く係を設け、教師から聞き取ったヒントをグループの生徒に説明する。

分からないときは、聞き合い、分かっている人が教える。

教えることによって、より深く理解が深まることを伝える。

### イ 確かな学力の育成に係る実践的調査研究指定校（B高等学校）の実践例

#### (ア) 研究課題（抜粋）

協同学習などを取り入れた言語活動の充実により、思考力・判断力・表現力等の育成を図る指導方法の工夫改善に関する研究

#### (イ) 取組内容（抜粋）

思考ツール等を活用して生徒の考えを整理し、ディスカッション、プレゼンテーションなどのアクティブラーニングを取り入れた授業実践を進める。

**【授業の基本的な流れ】**

- ①課題の提示 ②自分で考える ③考えをシートに記入する ④他者の意見を聞き、シートに記入する  
⑤ペアまたはグループでディスカッションする ⑥まとめた意見を発表する

**【留意点】**

〈考えを深める場面で〉

生徒一人一人が自分の考えを持ち、他者の考えとの共通点や相違点を意識しながら、考えを深める。

〈書く場面で〉

集めた情報を整理・分析し、論理的にまとめて表現する。

〈発表の場面で〉

自分でまとめた事柄などについて説明したり、相手の立場や考えをお互いに尊重し合ったりする。

～各教科等における具体的な取組～

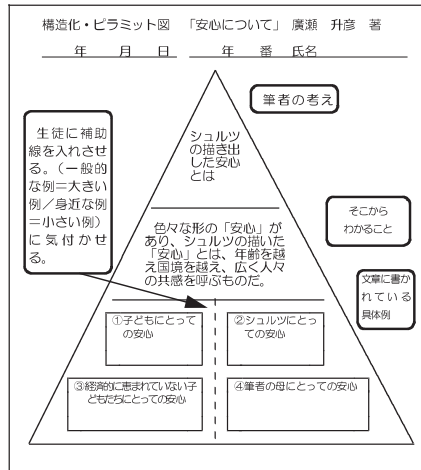
**■国語**

**【現代文】**

- ・教材文を読んだ後、ピラミッドチャートに記入し、筆者の主張（考え）や論理の展開の仕方を分析（個人学習）。
- ・作成したピラミッドチャートの妥当性について、ペア学習で検討。
- ・次に、自分の主張（考え）を作文するために、再度ピラミッドチャートに具体例等を記入（個人学習）。
- ・作成したピラミッドチャートの妥当性について、ペア学習で検討。
- ・ペア学習では、記入に当たり分からないところを聞き合う。

記入者の思考が可視化されるため、ペアの相手は意見を出しやすくなる。

「ピラミッドチャート」（思考ツール）



**【記入のしかた】**

- 一番上の階層 主張したいこと
- 二番目の階層 焦点化したこと
- 三番目の階層 集めた情報、思いつくアイデア、具体例等

他の人に助けられながら自分の考えをまとめることができるため、他の生徒と学び合うことの大切さを知ることができる。

**■商業**

**【ビジネス基礎】**

- ・環境問題等について、まずは一人で考え、シートの「自分の意見」欄に記入。
- ・次に、小グループ内で意見をまとめ、「小グループの意見」欄に記入。
- ・小グループを合わせた大グループを作り、リーダーが中心となって意見をまとめ、「グループの結論」欄に記入後、発表。

聞く側が傾聴スキルを身に付けることも、コミュニケーションを成立させる大きな要因である。例えば、「話している人の顔を見る」、「相づちをタイミング良く打つ」等

**★思考ツール活用のメリット**

- ・考えや情報が整理できる。
- ・学んだことや調べたことにつながりが明確になる。
- ・アイデアや問題を視覚化できる。
- ・考えたことを他人と共有できる。

「アクティブシート」（思考ツール）

1年【 】番氏名【 】

	自分の意見	小グループの意見	グループの結論
環境問題			
1エ 問 答	自分の考えを持って、他者と話し合い、考えを比較吟味して統合し、よりよい解や新しい知識を創り出す。		

「グループの結論」が導かれるまでの思考の過程が可視化できる。

**ウ 成果(生徒に見られる変容)**

- ・思考ツールを活用し考えや情報を整理することにより、他者に的確に分かりやすく伝える力が身に付き、意欲的に学習に参加するようになった。
- ・ペアやグループで考えを伝え合うことを通して、自分の考えや集団の考えを発展させることや、互いに尊重し合い、よりよい人間関係を築くことができるようになった。

## 2 各学校の創意工夫を生かした特色ある教育課程の編成

学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校の主体性を発揮できる教育課程を編成することが重要である。その際、学校の運営組織を生かし、全教職員がそれぞれの分担に応じて十分研究を重ねるとともに、教育課程全体のバランスを考慮し、家庭や地域社会との連携を図りながら、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開することが大切である。

また、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、課題解決のために必要な思考力、判断力、表現力等を育成するとともに、生徒の学習習慣を確立し、主体的に学習に取り組む態度を養うことができるよう、学力向上に向けた取組の充実に努めなければならない。

そのため、各学校においては、生徒に育成すべき資質・能力の育成の状況を適切に把握するとともに、学習指導の改善につながる学習評価の在り方を検討し工夫する必要がある。「何を知ってるか」とどまらず「何ができるようになったか」へ学習評価の基準を見直し、生徒や保護者に理解されるよう分かりやすく周知する必要がある。

### ■ C高等学校の実践例（普通・理教科 6問口）

<b>1 ねらい</b>	
本校生徒の学力向上に向けて、学習指導の改善に資する学習評価（観点別評価）を研究し、生徒と教師それぞれが効果的に学習評価を活用できる3年間を見通したシラバスを作成する。	
<b>2 課題把握</b>	
(1) 校内研修の企画・実施 学力向上に関わる課題を明確にするため、全教員がグループに分かれ、K J法により進路や教務等の分野別や短期・中期・長期の検討時間別に課題を整理する。	
(2) 重点課題の設定 今後の学力向上に向けた具体的な課題として、「3年間を見通したシラバスの作成」「進路希望に応じた教育課程の編成・実施」「進学講習体制の再構築」「家庭学習の充実」などがあげられる。	
<b>3 取組内容</b>	
(1) シラバス作成の指針 各年度ごとの入学生に、3年間で学ぶ全ての教科・科目の履修順序や年間の進度、評価規準等を明示したシラバスをそれぞれ配付し、短期・中期・長期にわたり計画的に学習に取り組むことができるようにする。	
<b>生徒の視点</b>	<b>教師の視点</b>
① 3年間の学習活動の見通し ア 3年間の授業計画及び学習内容の提示 イ 個々の進路に応じた科目選択の指針 ② 自ら学習に取り組める学習方法の工夫 ア 学習評価の基準の明示 イ 家庭学習の習慣化に向けた取組	① 3年間の学習活動の見通し ア 3年間の授業計画及び学習内容の提示 イ 新たに導入する45分授業への対応 ② 教科担任相互の指導内容の共通理解 ア 学習指導要領を踏まえた指導内容 イ 観点別評価の規準作成（指導の統一）
(2) シラバスの構成・工夫 ア 家庭学習の留意点	
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復習が中心となります。授業はほぼ毎日ありますから、その日の授業で取り組んだ例題・問を自力で解き直し、問題集の該当問題を解きます。</li> <li>・週末にはその週に学習した内容についてあらためて復習し、疑問点が残らないようにします。</li> <li>・不明などところがある場合、量が多くならないうちに教科担任に質問し解決するようにします。</li> <li>・大学等進学を目指し家庭学習をする場合、各章末問題が理解できるかが1つの目安になります。教科書・問題集の基礎・基本を確実に身に付け、その考え方を十分に活用し章末問題にもチャレンジしましょう。考える力が試されますので、じっくり取り組んでください。</li> </ul>



イ 評価規準					
評価規準	観点	a 関心・意欲・態度	b 数学的な見方や考え方	c 数学的な技能	d 知識・理解
	評価の観点	数学的活動を通して、数と式、集合と論証、2次関数、図形と計量、データの分析における考え方に興味をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	数学的活動を通して、数と式、集合と論証、2次関数、図形と計量、データの分析における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考察するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考察し、表現できる。	数学的活動を通して、数と式、集合と論証、2次関数、図形と計量、データの分析における、事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の技能を身につけ、的確に問題を解決できる。	数学的活動を通して、数と式、集合と論証、2次関数、図形と計量、データの分析における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。
	比重	10%	30%	30%	30%

観点ごとの評価に対する比重を、4つの観点の評価方法に応じて配分するなど工夫がなされている。

また、学校や家庭、地域社会が連携し、役割分担をしながら、学校における授業、地域における多様な学習や体験活動の機会の充実等に取り組むことにより、土曜日の教育環境を豊かなものにすることが大切である。平成25年に学校教育法施行規則が改正され、土曜日等の授業は、公立学校においては、当該学校を設置する地方公共団体の教育委員会が必要と認める場合は実施できるようになった。道教委では、平成26年3月31日付けで、北海道立学校管理規則等を改正した。(135ページ参照)

次に北海道高等学校学力向上推進事業における土曜授業調査研究校の実践例を示す。

#### ■ D高等学校の実践例（普通・理数科 6間口）

1 取組の概要
理数科の1・2学年が履修する学校設定科目において、生徒が取り組んだ課題研究の「成果発表会」を土曜日に実施した。 内容は、1年は日本語による発表と英語による発表、2年はポスター発表である。
2 成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 土曜日に実施したことにより、多くの保護者や中学校教員、他の高等学校教員等が発表会に出席することができ、本校の特色ある教育課程や教育活動について理解を広げることができた。</li> <li>● 本校の取組を更に校外に情報発信し、外部の参加者が多く本校を訪れることにより、本校の生徒による研究活動の取組について一層の理解を図る必要がある。</li> </ul>

#### ■ E高等学校の実践例（総合学科 3間口）

1 取組の概要
農業や環境、外国語に関する科目を履修している生徒が、本校や地域の施設を会場に、地域住民等に対する本校の特色ある教育活動の理解と充実を図るため、「感謝フェア」を土曜日に開催した。 内容は、プレゼンテーションによる各科目の調査内容や活動成果の紹介や、実習で加工した製品の販売、環境学習の展示や理科子ども体験教室の実施である。
2 成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 昨年まで一部の生徒により休日に実施していたが、教育課程に位置付け、日頃の授業の成果を地域に紹介する場として実施したことにより、生徒の学習意欲を高めることができた。</li> <li>○ 地域住民との触れ合いを通して、生徒の人間関係形成・社会形成能力や課題対応能力を向上させることができた。</li> <li>● 一層の教育効果を図るため、全校生徒が参加できるよう取組の工夫・改善が必要である。</li> </ul>

### 3 キャリア教育の実践事例

#### (1) インターンシップの充実

キャリア教育の充実は、社会人・職業人としての自立が迫られる時期である高等学校段階における喫緊の課題である。各学校においては、産業界等との連携の下、インターンシップ（職業体験）や職業講話などに取り組んでいる。

インターンシップについては、道立高校の全日制において、在学中に1回以上経験した生徒の割合は、普通科36%、職業科92%、総合学科92%であり、十分といえない状況である。特に普通科におけるインターンシップの充実を図ることが必要である。

こうした状況を踏まえ、道教委では平成26年5月に「インターンシップ指導事例集」を作成し、道立高校に周知している。ここでは、普通科の事例について紹介する。

## インターンシップの事例（普通科）

◎ 小・中・大規模校と3つに分けて示しています。  
 ( )内の数字は単位時間数を表します。  
 ◎「総学」は「総合的な学習の時間」の略です。

	小規模校 F 高校 対象 2・3学年 生徒 16名	2、3学年同時のインターンシップ	
事前	○ガイダンス(1) ○キャリアカウンセリング(3) ○卒業生と地域の企業経営者からの講話(4)	総学 <b>8時間</b>	
当日	○6月、10月実施 受入れ先13事業所 ○2年次8日、3年次3日 ○実習日誌作成 ★受入れ先評価	総学と 学校設定科目 <b>18~48時間</b>	
事後	○実習発表会準備(1) ○実習発表会(2)	総学 <b>3時間</b>	
★教員の声：「3年生が初めて就業体験を体験する2年生を指導する姿、その成長した姿を見て感動した。」			

	中規模校 G 高校 対象 2年生全員 生徒 111名	2年生全員対象のインターンシップ	
事前	○ハローワーク職員からの講話(1) ○教頭、進路指導部教諭の講話(2)	総学 <b>3時間</b>	
当日	○10月実施 受入れ先42事業所 ○実習日誌作成 ★受入れ先評価	総学 <b>12時間</b>	
事後	○実習レポート作成(1)	総学 <b>1時間</b>	
★教員の声：「就業体験後、将来の目標をもって努力する生徒が増えた。」			

	大規模校 H 高校 対象 1年生全員 生徒 320人	ジョブ・インタビューを取り入れたインターンシップ	
事前	○大学教授からの講話(1) ○進路ノートによる学習(2) ○受入れ先事業所の調査、事前準備(2)	総学 <b>5時間</b>	
当日	○10月末実施 受入れ先100事業所 ○ジョブ・インタビュー、レポート作成 ★受入れ先評価	特別活動 <b>6時間</b>	
事後	○体験をグループシェアリング(2) ○体験発表会準備・予行演習(7) ○体験発表会（保護者や関係者を招待）(3) ○集録発刊	総学 <b>12時間</b>	
★教員の声：多くの生徒は、取材、体験、レポート、発表と様々な課題を計画的に取り組む「段取り力」が身に付いた。			

### 難しい職種への対応

山口県のK高校では、上級学校の進学を前提に、将来の職業選択を見据えた職種での就業体験を実施しているが、就業体験が難しい職種においては、ジョブ・インタビューとジョブ・シヤドールを実施している。

### 専用アカウントで出欠を管理

愛媛県のL高校では、4日間に、200人以上の生徒が就業体験をする。出欠に関して、生徒に専用アカウントを発行し、就業前、就業後の生徒からの連絡、出欠の管理を学校HP上から行っている。

◎その他、実践例は「普通科における効果的なインターンシップ指導事例集」に掲載されています。（URL：[http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/sa/H26inta-n\\_1.pdf](http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/sa/H26inta-n_1.pdf)）

### インターンシップのポイント ～生徒のニーズに合わせる～

■ インターンシップを実践している高等学校の報告では、生徒のニーズに合ったインターンシップを行うことができた場合、効果が高いことが挙げられている。  
 例えば、進学志望者が大多数を占める場合、

- ・大学卒業後の就職を念頭において、就業希望の分野での体験活動の実施
- ・当該職務への理解を深め、将来ビジョン構築の契機とすること などが効果的であると考えられる。

文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」（平成23年11月）から引用

■ 高度な研究機関への就業や科学技術部門への就業を志望する生徒には、

- ・研修旅行の機会を活用した研究機関での研修
- ・地元の高等教育機関との連携
- ・医療現場での高校生向け研修の活用 など
- 一方、生徒の志望が地元志向である場合、
- ・地域の商工会を通して地元事業所をコーディネートするなどの方法もある。

-H26総則 6-

## (2) 進路カルテの活用

各学校においては、生徒が入学してから卒業するまで、継続的に進路指導を行うため、各年度のホームルーム担任はもとより、関係する全ての教職員が、生徒一人一人の進路希望等の情報を共有することが重要である。進路カルテ（平成26年5月21日高校教育課主査事務連絡「進路指導用資料『進路カルテ』等について」で周知）は、そのために作成されたものであり、日常の進路指導に活用することが望まれている。

ここでは、進路カルテの主な機能と、その活用方法について紹介する。

### 進路カルテの機能とその活用方法

成績、学校生活等

進路カルテ(例)

生徒氏名	保護者氏名			学年(年次)	進	希望
住 居				電話番号		
				緊急連絡先		
学年(年次)	評定	欠席	遅刻	早退	生徒会役員・学級役員	部活動等
1年(次)	学年平均	欠席率			前期	後期
2年(次)						
3年(次)						
4年(次)						
調剤等						

**学年始めの面談で、生徒が一年の目標を立てる際に、また、これまでの高校生活を振り返る際に活用する。**

特に、2、3年生は、昨年度の①評定、②欠席・遅刻・早退、③生徒会・学級役員、④部活動、⑤資格等を振り返り、目標を立てる。

面談等の記録

学年(年次) \_\_\_\_\_ 面談等の記録(生徒の考えや保護者の考え等)

年 月 日 ( 本人 父 母 その他 ( ) )

年(次) \_\_\_\_\_

年 月 日 ( 本人 父 母 その他 ( ) )

**「面談の内容」を逐一記録することで、生徒の意向や保護者の考えを把握する。**

面談の記録は大切。過去の記録を基づいて、次に面談で建設的に話を進められる。

生徒の活動の記録

学年(年次) \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

年(次) \_\_\_\_\_

年 月 日

**「学校説明会」「企業説明会」「就業体験」等の参加状況や学校・企業の対応などを記録する。**

不適切な事例等があれば記入し、その後の迅速な対応につなげる。

進路希望の記録

学年(年次) \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

年 月 \_\_\_\_\_

進路希望の記録

年 月 \_\_\_\_\_

**進路希望の調査ごとに記録する。**

年に複数回行う進路希望調査を記録。生徒のこれまでの進路希望と今後の方向性を考える。

進路希望先学校チェックシート

進路希望先学校チェックシート(例) \_\_\_\_\_ 年 月 日 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

学校名	希望単位	業 務 希 望
学科・コース名等	分野	
住所・電話番号	T E L	
就業定員	就業年限	
オープンキャンパス等の実施日	月	日 (希望した日を記入)
・通学に便利か		・校舎がきれいか
・施設・設備の様子		・体験授業の様子
・職員の態度		・参加者の様子
・その他		
A O エントリー開始	年 月 日	事務手続開始
年 月 日		年 月 日
出願期間	開始	年 月 日
～ 締切	年 月 日	～ 締切
年 月 日		年 月 日
合格発表	年 月 日	～ 試験から
～ 発表	年 月 日	～ 試験から
年 月 日		年 月 日
推薦基準	評定平均 ( )	・ 志望状況 ( )
・ その他 ( )		

**オープンキャンパスや希望先学校訪問の準備や記録に使用し、具体的な情報を把握する。**

例えば、①募集定員、②修業年限、③オープンキャンパス等での見る観点（通学に便利か、校舎はきれいか、施設・設備の様子、体験授業の様子、職員の態度、参加者の様子等）、④出願期間（推薦、一般）、⑤合格発表、⑥推薦基準 など、生徒が記入する。

## AO入試合格による早期の進路決定について

### 課 題

例年、大学や専修学校等のAO入試の入学願書受付が始まる8月1日以降に、AO入試の合格により、早期に進路を決定する例が生じる。その際、学校が生徒の進路動向を十分に把握していないケースがある。

め進路指導上の留意する点

**進路カルテ**の活用等で進路希望等を継続的に把握する。

**AO入試へ**の出願希望がある場合、安易な出願とならないよう、①入学の**目的が明確**か、②**保護者が同意**しているか、③出願予定の学校の**学習内容、進路状況、学費**などを十分に**理解**しているかを確認し、必要な指導、支援をする。

### 合格内定後は、

学校生活に支障が生じないように、①生徒の学習状況等を**定期的**に把握し、意欲的に取り組むよう指導する。  
②課題がある場合は、**合格先の学校と連携**し、適切に指導、支援していく。

#### 4 高等学校における道徳教育

##### (1) 各教科・科目等における人間としての在り方生き方に関する教育の展開

人間としての在り方生き方に関する教育は、学校の教育活動全体を通じて各教科・科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて実施するものである。特に公民科の「現代社会」及び「倫理」にはそれぞれの目標に「人間としての在り方生き方」を掲げており、これらを中核的な指導の場面として重視し、道徳教育の目標全体を踏まえた指導を行う必要がある。このほかの各教科・科目においても目標や内容、配慮事項の中に関連する記述があることから、全教師の連携協力のもと、道徳教育の年間指導計画に基づき、各教科・科目を含めた教育活動全体を通じて人間としての在り方生き方に関する教育が一層具体的に展開される必要がある。

次に示す道徳教育年間指導計画は、教科・科目において取り扱う道徳教育の内容項目の一部を抜粋したものである。

M高等学校第2学年の道徳教育年間指導計画（教科・科目から一部抜粋）

教科・科目	内容	道徳の内容項目																					
		自分自身			他人とのかかわり				自然とのかかわり		社会とのかかわり												
		基本的な生活習慣	自主・自律	理想の実現	個性の伸長	礼儀作法	感謝・思いやり	友情・信頼	異性関係	寛容・謙虚	自然への畏敬	生命の尊重	生きる喜び	権利と義務	公徳心	公正・公平	勤労奉仕	家族愛	愛校心	先人への感謝	伝統の理解	国際理解	
国語・国語表現	口語のきまり、言葉遣い		○	◎	○	○	○	○	◎	○				○	○	○	○					○	
国語・古典A	古文読解				○	○	○	○		○											○	◎	○
国語・現代文A	小説読解		○	○	◎			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○
地理歴史・日本史B	原始・古代の日本と東アジア																				○	◎	○
地理歴史・日本史B	第二次世界大戦と日本			○				○	○		◎		◎										○
地理歴史・地理B	現代世界の諸問題の地理的考察							○	○		○	○											◎
公民・政治・経済	現代の政治		○					○			○		◎	○	○	○							
公民・政治・経済	現代の経済		○					○			○		◎	○	○	○							
公民・政治・経済	現代社会の諸課題			○				○			○		◎	○	○	○							○
数学・数学Ⅱ	高次方程式	○	○	◎	○											○							
数学・数学Ⅱ	三角関数	○	○	◎	○											○							
数学・数学B	数列	○	○	◎	○											○							
理科・物理基礎	電気				○					○	◎	○	○										
理科・生物基礎	生物の多様性と生態系				○	○		○			○	○	◎	○									
理科・地学基礎	変動する地球			○	○					○	◎	○	○										
保健体育・体育	体づくり運動	○	◎		○	◎	○	○			○		○		○	○				○			
保健体育・体育	体育理論			○	○					○				○	◎	○							
保健体育・体育	陸上競技	○	○	◎	○											◎							
保健体育・体育	武道	○	○	◎	○	◎									○								◎
保健体育・保健	現代社会と健康	◎		○				○	◎		◎	○	○	○	○		◎	◎			○		
芸術・音楽Ⅱ	歌唱	○		○	◎	○		◎		○		○								◎		○	○
芸術・美術Ⅱ	映像メディア表現		○	◎	◎					○													
芸術・書道Ⅱ	鑑賞	○			◎	○				○					○						○	○	○
外国語・コミュニケーション英語Ⅱ	聞くこと・話すこと			◎	○			○		○												○	◎
外国語・英語会話	非言語的手段の役割の理解	○	○	◎	◎	○		○														○	◎
外国語・英語表現Ⅱ	ディスカッション		◎	○	○					○					○							○	◎
家庭・家庭総合	人の一生と家族・家庭	○	○	◎				○	○	○		○	○	○	○		○	◎		○			
家庭・家庭総合	子どもの発達と保育・福祉	○	○	○				◎		○		○	○	○			○	◎					
家庭・家庭総合	高齢者の生活と福祉	○	○	○				◎		○		○	○	○			○	◎					

○印：道徳的な視点から、身につけさせたい内容項目

◎印：身につけさせたい「道徳の内容項目」のうち、特に、重要視する項目



## (2) 特別活動と道德教育の関連について

特別活動は、その目標の中で「人間としての在り方生き方」を掲げており、公民科の「現代社会」や「倫理」とともに、人間としての在り方生き方に関する教育について中核的な指導の場面となる。

特別活動では、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事を通して、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育成することが重視され、体験活動や話し合い活動の充実が求められている。特に、ホームルーム活動を中心として、社会の一員としての自己の生き方を探求するなど、人間としての在り方生き方に関する指導を行うことにより、道德性を育成する重要な機会となる。

### ホームルーム活動の取組

N高等学校では、学校教育活動全体を通じて行う道德教育の中核的な指導の場面となる特別活動（ホームルーム活動）等において、生徒に人間としての在り方生き方を主体的に探求させる道德教育の推進を目指している。

#### ○具体的な取組

##### 【3年LHR】

- 1 テーマ  
「死ぬこと、生きること」
- 2 目的  
さまざまな人の生き方、死の迎え方、考え方に触れることで自分の人生を真剣に考える機会とし、生涯にわたって健康に生きる能力と態度を育てる。
- 3 講師  
国民健康保険診療所 所長  
訪問介護ステーション所長
- 4 内容  
13:15 死を考える授業について  
13:25 全体の流れ説明  
13:35 事例1「寛太くんのお話」  
13:50 グループワーク1  
14:05 休憩  
14:15 事例2「10代の脳死判定・臓器移植」  
14:30 グループワーク2  
14:45 発表、まとめ  
15:00 感想記入

##### ●グループワーク1

講師から、訪問看護師として出会ったお子さん（重度の障がいを持って生まれ、長く生きられないことを宣告されている）についての話があり、その後次のテーマでグループワークを行った。

①みなさんの大切な家族が、あと半年の命と告げられたら、みなさんは何をしたい、してあげたいと思いますか？

(グループワークで出た意見)

ずっと側にいたい、その人がしたいことをさせてあげたい、いつも通りに過ごす、頑張っているところを見せてあげる、たくさん話をする、旅行に行く

②障がいや病気があっても、その人が周りの人を笑顔にできる方法は何だと思いますか？

(グループワークで出た意見)

あきらめない姿を見せる、自分が障がいを持っていると思わない、周りの人も障がい者として変に気を遣わない、精一杯生きて人生を楽しんでいることを笑顔で伝える、楽しく明るい雰囲気、ありがたいの雰囲気を醸し出す

##### ●生徒の感想

- ・もし、自分が明日急に死んだとしたら、後悔することが多い。側にいてくれる人や、支えてくれてる人に感謝の気持ちを伝え忘れていたり、時間を大切にに使っていないから。私はこれから看護に関わっていくので、今日は視野を広めることができ、自分の考えを深めることができ良かった。
- ・死は身近。いつ自分の身内が亡くなるかわからないので、大切にしたいと思ったし、気軽に「死ね」とか「消えろ」とか言う人がいるけど、その人達にも命の大切さをわかってほしいと思った。
- ・人のために生きたい。自分は人の役に立ちたくて進路を選んだ。仕事が違っても、人を助けることや治すことって難しいことなんだなと思ったし、人と向き合うことが大切だと思った。



## 5 北海道公立高等学校平成26年度入学生教育課程編成の状況

### ○資料1

「学校設定科目」の設定状況（全日制）

年度・学校数	課程・学科	全日制課程 普通科	全日制課程 総合学科	全日制課程 専門学科
平成26年度		156校	16校	59校
平成25年度		154校	16校	53校

### ○資料2

「学校外における学修の単位認定」の状況

	大学・高専等における学修	技能審査等の成果	ボランティア活動等の学修
全日制課程普通科	15校	58校	13校
全日制課程総合学科	7校	13校	6校
全日制課程専門学科	6校	36校	4校
定時制課程普通科	4校	19校	7校
定時制課程専門学科	2校	15校	1校

### ○資料3

「類型を設定している学校（全日制）」の状況

	第1学年から	第2学年から	第3学年から
普通科	1校	57校	24校
専門学科	2校	20校	1校

### ○資料4

「履修と修得を分離している学校」の状況

	全日制課程 普通科	全日制課程 総合学科	全日制課程 専門学科	定時制課程 普通科	定時制課程 専門学科
校数	66校	16校	23校	11校	8校

### ○資料5

「学期の区分ごとの単位修得の認定を行っている学校」の状況

	全日制課程 普通科	全日制課程 総合学科	全日制課程 専門学科	定時制課程 普通科	定時制課程 専門学科
校数	41校	12校	8校	7校	8校

### ○資料6

「2学期制を実施している学校」の状況

	平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度
全日制課程	195校	197校	199校	197校
定時制課程	36校	36校	36校	36校

注：中等教育学校は、全日制課程普通科に含めている。